

とのお声もたくさんいただき、事業所としても大変もどかしい思いをした1年間でした。

今年度は人事異動でサービス提供責任者が1名減り、5名のサービス提供責任者で運営をしていくことになりました。近年、登録ヘルパーの減少が続き、新たなヘルパーの確保も難しい状況です。

ご利用者へ一層のサービス向上に向けて取り組んでいるところではありますが、今後の更なるヘルパーの減少やニーズの変化も見据え、安定的にサービス提供が継続できる事業運営を目指すため、事業内容や事業圏域等の運営方法も検討していきたいと考えています。

その一環として、事業支出の改善を図るため、この4月13日に事業所を法人施設である港第二育成園内に移転をしました。住所は「港区波除6丁目4-5」に変わりましたが、電話・FAX番号は従来どおりで変更はありません。事業所も変わり心機一転、スタッフ一同、可能な限りご利用者のニーズに応えていきたいと思っております。

メープル 管理者 角森 佐岐子



『輝』

今年度もグループホーム<メープル>を担当することになりました。よろしくお願いいたします。

昨年度は、コロナ禍で今までに経験したことのない1年でした。マスク生活にもす

っかり慣れ、手洗い消毒でカサカサになった手も当たり前になってしまいました。

しかし、サービス業で働くご利用者の中には、未だ職場に戻れない方もいて、健康面だけではなく、この先どうなっていくのか心配は絶えません。そんな中でも日々の生活は粛々と続き、相変わらず大小様々な問題が生じます。

昨年末から建物の老朽化などを理由に、立て続けに3か所のホームが立ち退きを迫られています。現在も物件を探していますが、多くの制約がある中で4~5人が一緒に暮らせる家を見つけることは大変難しく、3DKの住居を複数借りることになるかと思っております。ホームの数が増えると、世話人や支援員の配置も変更しなければならず、ご利用者の生活環境は大きく変化してまいります。

また、加齢に伴い通いなれた日中活動が難しくなってきた方もいらっしゃると思います。ご本人たちは、今のままがいいと仰いますが、心身の状態を見極めながら適切な時期に必要なサービスに移行できるよう準備を進めていかなければなりません。

人生は選択の繰り返しです。ピンチはチャンスと考えて、この変化がご利用者の未来を輝かせるものになるよう、私たち支援者が知恵を絞る時だと決意を新たに臨む春です。

福島育成園 管理者 松本 源太郎



この度、福島育成園管理者(施設長)を拝命いたしました松本源太郎です。

以前は支援の立場で配属されていたこともあり、今回ご利用者、職員からも「おかえり」と言われ、何か少し照れくさいような懐かしいような感覚も覚えた次第です。

しかしながら、支援員でいた頃とは立場も違い、そのためか見える景色も何か違うように思います。福島育成園は今回管理者としては初めてとなりますが、配属当初は規模の大きさや、覚えることの多さに圧倒されがちです。しかし、十川副施設長、今年度より副施設長になった山下副施設長、織田副施設長、そして基幹相談支援センター神山管理者、地域(グループホーム)廣瀬管理者をはじめ現場スタッフが昨年度から引き続き守っていただいている基盤があり、私も安心感がとてもあります。

さて、就任してまず考えないといけないことは、新型コロナウイルス感染拡大第4波の中にあって、新型コロナウイルス感染防止とご利用者の安全です。日中以外に生活の部分を支援する事業所としては、これまで以上に気が引き締まる思いです。これまで努力してこられたご利用者・スタッフとともに安全で安心できる事業場をとものに守っていききたいと思っております。

それから、すでに、スタッフとも話をしていく中で、「あんなことしてみたい」「こんなことしてみたい」と希望を聞くこともあります。それを一つでも二つでも前に進めるためにしっかりと福島育成園の管理者としてスタッフはもちろんご利用者や保護者の皆様、また地域の方々に育てていただく気持ちです。

管理者としての抱負と行きたいところですが、全く今のところは皆さまに大きなことが言えるような内

容は正直思いつきません。

しばらくは福島育成園のことをより知っていくことが今の私のなすべきことであると自覚しています。

ただ、ご利用者が笑顔で安心して、その人らしく過ごしていただけるようスタッフと協力していけたらという思いはどこに配属されても同じで、スタッフと協力しながら仕事をまっとうしていきたいと考えております。

ビーンズ 管理者 廣瀬 潤



この度、地域生活援助事業所ビーンズの管理者を拝命いたしました廣瀬潤です。宜しくお願い致します。

この約1年を振り返ると、新型コロナウイルスの感染の波が大阪でも広がりを見せ、コロナの感染対策から、我々の生活様式にも変化をもたらし、戸惑いや不安を感じておられる方々がほとんどではないかと思っております。

ホームで生活を送るご利用者の方々の中にも、週末の余暇活動や通所先での食事会や旅行などの行事が、中止・自粛されることとなり、外出をしたり、楽しむ機会が制限された1年だったと思っております。

毎日、ホームでは、ご利用者の方に、手洗い・うがい・消毒・検温・食事中の密を避けるため、仕切り板を設置して時間差で食事を摂って頂いたり、あらゆる場面で声を掛けたり、お願いする機会が多く見られます。皆さんにもご不便を掛けますが、もうしばらく一緒に頑張ってください。

私事ですが、福島エリア・ビーンズでの勤務は、4年ぶりとなります。4年ぶりにグループホームの皆さんの顔を見るとあまり変わらない方もいらっしゃいますが、月日を感じさせられる方もおり、年齢が高くなり老いを感じることもあります。

ビーンズのご利用者は、4年前と比べて3名減・1住居減となり、現在2住居で男性が10名と女性3名の13名の利用となっています。平均年齢は約55歳となります。ご家族が既におられず、全く単身の方や成年後見人や保佐人の制度を利用されている方が増えてきています。以前にご家族と過ごされた思いや思い出を懐かしく話されるご利用者もおり、私自身もですが、年齢を感じさせられる機会が増えてきたと感じております。グループホームを利用する皆さんの加齢に伴い、今後の支援をどのように組み立て、対応して

いくのか、介護制度の活用などについても、より一層検討していかなければなりません。またホーム内の環境だけではなく、通所が難しくなった場合の日中の過ごし方など、近い将来に想定される高齢化の問題については、早急に準備していかなければなりません。

今年度は、明るく・元気に過ごすことができるよう、個々のご利用者の気持ちに寄り添いながら、法人理念である「安心して心豊かに過ごせるように」を支援者として常に意識して、ホームスタッフ一同努力してまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

ふりーすぺーすSUN 管理者 坂本 倫太郎



この度、ふりーすぺーすSUN管理者を拝命いたしました坂本倫太郎です。よろしくお願いいたします。

法人本部で5年間、福島育成園で7年間の勤務を経て現在に至ります。

ふりーすぺーすSUNは、東成区で20年近くに渡り活動を続けてきた事業所です。育成会とは事業所協議会の一員として、共に運動会をおこなったり、東成育成園とは合同で行事をおこなったりと関わりの深い事業所でした。

3月31日をもって管理者の藤原鈴子氏が引退をされるということで、NPO法人としてのSUNは解散となり、後継者としてご指名いただいた大阪市育成会が、この4月より運営をさせていただくこととなりました。

現在、生活介護事業所としてご利用者8名で運営をしているところですが、事業所立ち上げの際には、地域の方々からの壮絶な反対運動があったと伺っております。そうした反対を乗り越え、徐々に地域の方々との繋がりを深めながら、「明るく! 楽しく! 元気よく!」「親亡き後の豊かな地域生活」の理念の元、長年運営を続けてこられた事業所。その事業所からのバトンということで、大変なプレッシャーや不安を感じております。

ただ、私以上に、運営法人が変わることで、ご利用者、ご家族、職員の皆様は、様々な部分で不安に思われていることと思います。その不安を一日も早く払拭し、SUNという名前の通り、皆様の明るい太陽のような笑顔を見たく精進していきたいと思っております。全てが従来通り、というわけではなくなるでしょう。積み上げるべきものは積み上げ、再構築すべきは再構築していく、そのひとつひとつの判断に責任を持って取り組んでいきます。